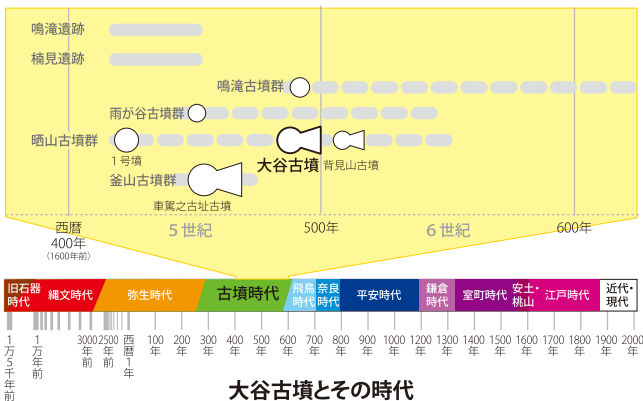


国指定史跡

おおたにこふん  
大谷古墳

Otani Kofun (Nationally-designed Cultural Property; Historical Site)



大谷古墳は、和歌山市大谷にあり、紀ノ川下流北岸につくられた前方後円墳です。

昭和32(1957)年から翌年にかけて、和歌山市教育委員会が京都大学考古学研究室に依頼して発掘調査を行いました。

発掘調査では、後円部の頂上から凝灰岩製の組合式石棺が発見され、その内外から装身具(玉類・耳飾り・帯飾り)、武器・武具(刀剣・甲冑・胡籥)、馬具(馬冑・馬甲・轡・鞍・銜)などの副葬品が出土しました。

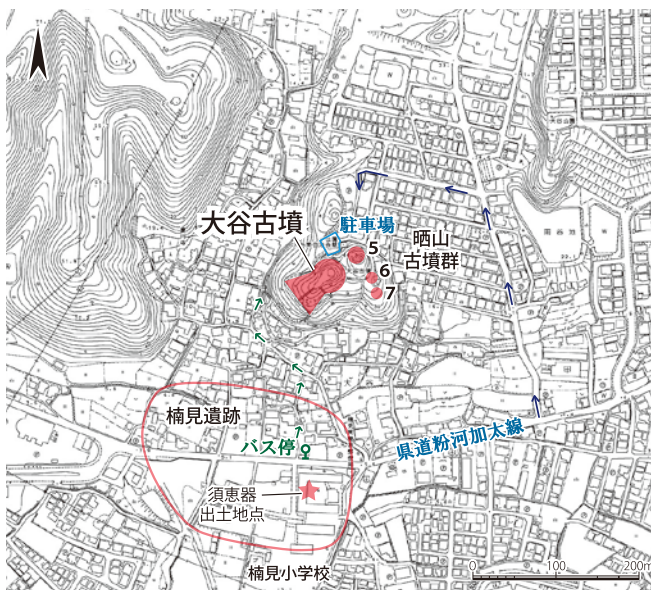
なかでも、馬冑・馬甲は、日本では他に1例ずつしかない大変珍しいものです。ほかにも唐草文の馬具や龍文の帯飾りなど、渡来文化の影響を受けた豊富な副葬品が目目されました。

大谷古墳は、昭和53(1978)年に国の史跡に指定され、また主体部出土遺物は、昭和57(1982)年に一括で国の重要文化財に指定されました。

Otani Kofun is a large key-hole shaped tumulus stretching the length of 67 meters in Otani, Wakayama City, across the northern area downstream of the Kinokawa River, at the southern foot of the Izumi Mountains.

Excavation and research of Otani Kofun began in 1957 and continued on into the following year. During this excavation a sarcophagus was discovered in a hole at the crest of the keyhole-shaped tumulus. From in and around the sarcophagus a great many burial accessories such as weapons, armor, and other personal belongings were unearthed. With the tumulus having been constructed in the later part of the 5th century, it is believed that persons interred within was a warrior of the Ki clan and might have had some connection to the Korean Peninsula.

Otani Kofun was designated a National Historic Site in 1978. Then in 1982 the sum of unearthed relics received the designation of Important Cultural Properties.



■大谷古墳の案内

- 交通：バス 南海和歌山市駅より川永団地行き(約 15 分)  
JR 和歌山駅より鳴滝団地行き(約 15 分)  
→楠見小学校前下車→徒歩5分
- 駐車場：古墳北側に車数台分の駐車場あり

■大谷古墳出土遺物の展示

- 和歌山市立博物館：和歌山市湊本町 3-2 TEL 073-423-0003  
常設展示で一部を公開(随時入れ替え)

和歌山市教育委員会 文化振興課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地  
TEL:073-435-1194 FAX:073-435-1294





墳丘 (左上が北)

## 墳丘

大谷古墳は、紀ノ川の北岸で、和泉山脈の南麓にある前方後円墳で、全長67m、高さ6～10mです。後円部の頂上には、石棺を納めた穴があります。



## 埴輪

古墳の北東の端には、円筒埴輪を並べ立てていました。また古墳のくびれ部分からも埴輪の破片が見つかっています。



石棺出土状況 (南から)

## 石棺

石棺は、九州の阿蘇産凝灰岩の組合式で、長さ2.9m、幅1.6mです。家の形で、孔のある突起が特徴的です。

## 装身具と農工具

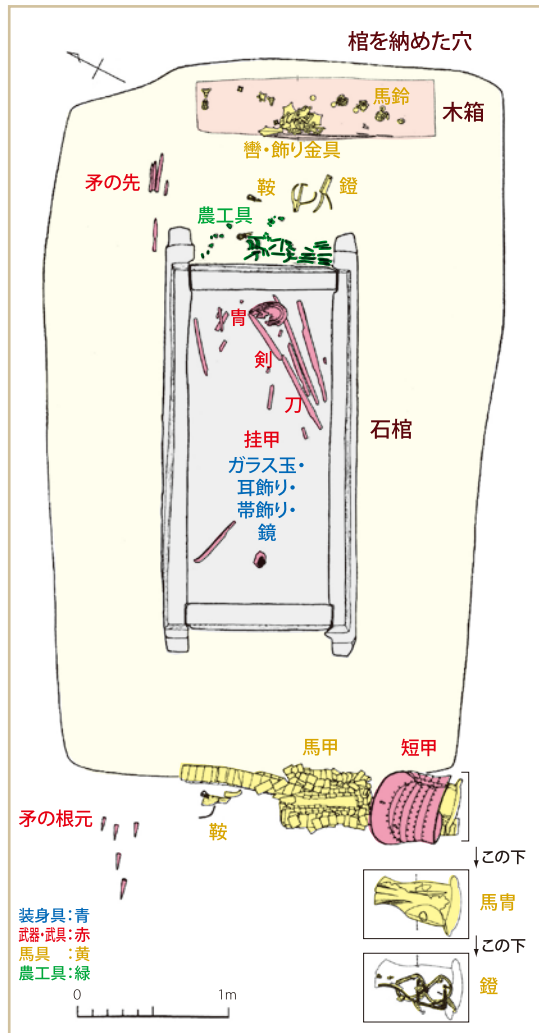
棺の中からは、身を飾るガラス玉、龍の文様がある帯飾りなどが見つかりました。また20～30歳の人歯が残っていました。棺の外には、鉄製の農具や工具のミニチュアや、滑石製の玉があり、埋葬の儀式で使用したようです。



装身具 (玉類・帯飾り)



農工具 (鍬・鎌・手斧・鑿・鉈)



墓に供えた品物が見つかった様子

## 馬の飾り

棺の東には、木箱が置かれ、箱は腐朽してなくなりましたが、中の品物は残っていました。馬の口につける轡や、飾り金具がありました。飾り金具は、金銅製で、美しい唐草文様があります。このような豪華な飾りは、当時珍しいものでした。



上から 轡・馬鈴  
下左 辻金具 (革帯を留める金具)  
下右 杏葉 (飾り金具)

## 馬の甲冑

馬用の甲冑は、高句麗古墳壁画などで知られていましたが、実物としては東アジア初の発見でした。その後、韓国で20例以上が発見され、中国東北部に源流がある騎兵装備が、朝鮮半島を経て日本に持ち込まれたことが明らかになりました。



馬冑・馬甲の小札の一部

## 武器・武具

棺内には、冑と挂甲 (小札を連ねたよろい)、刀、劍、鍬、胡録 (矢筒) がありました。棺の西には、馬の甲冑とともに、短甲がありました。棺の北には、矛が置かれていました。多くの武器が見つかったことから、墓の主は武人です。



短甲 (棺の西出土)・冑 (棺内出土)